

名 称	藤崎町体験活動ボランティア活動支援センター
所 在 地	〒038-3803 青森県南津軽郡藤崎町大字西豊田1丁目1 藤崎町文化センター内 藤崎町教育委員会生涯学習課
連 絡 先	TEL : 0172-75-3311 FAX : 0172-75-3313 URL : http://www.town.fujisaki.aomori.jp

地域の現況・特色

活動対象地域の人口 藤崎町 約16,000人

藤崎町は、青森県津軽平野のほぼ中央に位置し、旧藤崎町と旧常盤村が平成17年3月28日に合併して生まれた新しい町である。新町の総面積は37.26km²で、町域には山岳・原野がなく、地質は第4紀沖積層に属する、農業に適した肥沃な土壤に恵まれている。主な河川には、岩木川水系の岩木川・平川・浅瀬石川・十川・浪岡川があり、北部へと流れている。

りんごの主力品種である「ふじ」の発祥の地である当町は、農業の町であり、その他にも有機低農薬にこだわった「つがるロマン」「ときわの赤いたまご」「完熟トマト」など、安全安心な農産物を提供していただけるような生産体制を目指している。

事業の名称、活動概要

名称 藤崎中央小学校4年生川下り体験事業

川下り体験活動は、郷土の川と触れ合いを持つことにより、故郷の自然の豊かさを知り、地域の課題を考える、また自ら考え、自ら判断し、行動できる「生きる力」を育む子どもの育成を目的に、旧藤崎町にある藤崎町立藤崎小学校と藤崎町立中央小学校の2小学校の4年生を対象に隔年で1校ずつ実施している。

事業の実施に至る背景、連携・協働のねらい

川下り体験活動は、水に関わる総合的な学習の時間の一環として実施しており、団体、学校、行政が連携し、地域の知識・経験など地域の教育力を学校の教育に活かすことで、

子どもたちが川に携わる人や体験活動に協力してくれた人々の苦勞を知り、感謝の心を持ち学校教育の充実が図られる。さらに家庭・地域の教育力の向上が図られる連携・協働の具現化を目指している。

事業の内容

① 事前準備として行った取組（企画段階）

実施に当たっては、岩木川と地域づくりを考える会藤崎支部と学校、行政が連携し、4月中旬に実施期日を学校が決め、それを下に三者による事前打ち合わせを2回実施して協力者の依頼や送迎車等の準備、当日のライフジャケット、ボート等の準備物の手配や学校からの送迎体制や人員配置、資料となるパンフレットの準備などを三者が分担し、連携協力して実施している。

② 活動の展開内容（活動段階）

平成18年度は、藤崎町立中央小学校の4年生45名が参加し、藤崎町舟場親水広場より白鳥ふれあい広場までの約1キロメートルを約20分かけて川を下った。

2グループに分かれて、1グループ6艇のボートで1艇当たり救命胴衣を身に付けた3～4名の児童と1名のラダーマンと1名の保護者が乗る5～6名の編成で、川下りしながら、川の流れやボートの動き、カワセミやツバメなどの野鳥や鳴き声など、普段見ることのできない川からの風景を通して地元の自然や川との関わりについて学んだ。

1グループが川下りをしている間、もう1グループは川の生物、植物などについて観察し、平川の水質がきれいであるか汚れているか、その原因は何かを考え、またボランティア活動として付近のゴミ拾う活動をしていることも、この体験活動の大きな特徴である。

終了後は、使用したボートを子どもたち自身が洗い、後片付けをするなど、単にボートに乗って終わらないように配慮している。

③ 連携・協働に当たってのポイント・留意点

回数を重ねて実施していることで、関係機関それぞれの役割分担の下、連携協力がスムーズに実施する下地が確立されており、学校や行政の担当者が変わることや天候により、開催日が変更されるなどの様々な状況にも対応して実施している。

平成18年度は悪天候により、当初の実施日が雨天順延となり、順延後の実施日までの事前の時間があつたことで、資料のパンフレットを子どもたちがよく読んでおり、活動に対する把握が深まったことで進行がスムーズに実践されたことから、子どもたちの事前の

準備を十分にした方が学習成果が高くなる効果を得られるので、今後も活かしていきたい。

事業の成果と今後の課題

この体験活動により学校にとっても貴重な教育活動となっていることはもちろん、地域の教育力、人材を活用することにより、地域全体で学校や子どもたちを支えていこうとする機運が醸成され、関係機関全体での相乗効果が見られた。

今後は、町村合併に伴って、町内の小学校が藤崎町立藤崎小学校と藤崎町立中央小学校の2校から、旧常盤村の藤崎町立常盤小学校が加わって3校となっており、新たに常盤小学校を対象とした実施の計画も検討したい。その際は学校から川までの距離があることから児童の送迎に係る車両の手配や人員の配置等が課題である。

川下り体験活動が、マンネリに陥らず、より効果的な体験活動、学習機会となるよう関係機関の意見を組み入れながら創意工夫に努めていきたい。



実施前の説明を聞いている様子



実施前の説明の様子



川下りの様子



ボート清掃の様子



ボランティア清掃活動

執筆者職・氏名 藤崎町教育委員会 生涯学習課社会教育主事 佐々木克尚

コーディネーターからの一言コメント

学校、行政、そして地域のボランティアグループが協働している好例である。子どもたちの体験学習を組み入れるともっと充実すると考える。岩木川の歴史の聞き取り調査、生物や植物の採取・水質調査など、事後の発表も大切。

(橋本 洋光)